

# ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2010年7月

## 平成21年度規格部会報告

規格部会(ISO/TC 61, ISO/TC 138及び電気材料安全関係)は、日本工業標準調査会(JISC)標準部会策定の「平成18年度標準化政策」、経済産業省策定の「国際標準化戦略目標(平成18年11月)」及び「化学分野における国際標準化アクションプラン(平成22年4月改訂)」に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。

ここでは、平成21年度の活動実績および平成22年度の活動計画を紹介する。

### 1. 国際幹事国引受け

現在、4件の幹事国を引き受けているが、内容の充実を図りながら引き続き遂行していく。

平成21年度にANSI(米国)が幹事国を務めるTC61(プラスチック)、TC61/SC5(物理・化学特性)、TC61/SC9(熱可塑性プラスチック)を2010年で辞退するとの表明があった。キーSC幹事国獲得の好機であったが、予算不足、人材交代の関係で獲得を残念した。

今後、各企業・団体会員への標準化活動への一層の協力も得ながら、コンビナー人材の発掘等を進め、キーSCの幹事国獲得へ向けての基礎固めを行っていく。

### 2. 国際幹事国活動

TC 61/SC 11(プラスチック製品)、SC 12(熱硬化性樹脂)、SC 13(複合材料及び強化用繊維)およびTC 138(プラスチック管、継手およびバルブ類)の国際幹事として、規格開発プロジェクトの円滑な推進を進める。

今年度は、ISO/TC 61国際会議は、タイ・バンコック(9月12日～9月17日)で、ISO/TC 138国際会議は、中国・上海(10月19日～10月22日)で開催される。日本が議長を務めるSC 11、SC 12、SC 13及びTC138の会議の円滑な開催・運営を図る。

### 3. 国際標準開発活動

平成21年度の日本発の国際提案では、以下の1件の継続テーマ進展を図ってきた。

・プラスチックまくらぎ

本件は、「鉄道用まくらぎ」に関するJIS E1203:2007を基礎としてISO/TC 61に国際提案し、2008年に新規テーマとして採択されたもので、昨年のTC61国際会議(ローマ)でそのWDを審議した。その結果性能上のカテゴリーの拡大等の提案があり、再度WDを回送することとした。

### 4. 国際標準共同研究開発事業および調査研究

#### ① プラスチックリサイクル

はじめてのプラスチックリサイクルに関する国際規格提案(3件)であるが、再生PET原料の品質分類規格および試験方法規格はDIS投票中、PETシート製品規格はCD投票中であり、着実にステップアップさせている。

## ② 混合ポリオレフィンの標準化

平成20年度から始まった研究開発事業であり、品質の標準化を行い、停滞している当材料のリサイクルを加速し、国際的な環境ニーズに貢献することが期待される。平成21年度は、再商品化PE/PP混合品の各々の定量方法の検討を行った。H22年度は、引き続き再生材の組成定量法の確度検証、ISO への提案を検討する。

③ 平成22年度から、国際標準研究開発事業は、NEDO に移管されるが、次の2テーマを新たに申請した。

- ・薄膜等高性能プラスチックの物理、化学的試験方法の標準化
- ・強化プラスチック材料の試験方法に関する標準化

## 5. 有効なJISの絞込み徹底

JIS策定における品質向上、効率的制定を目指し、JIS制定必要性の厳選化とJIS原案品質レベルアップを継続していく。

平成21年度は、以下のJIS原案作成委員会において、区分A(H21年4月～H22年3月)3規格、区分B(H21年8月～H22年7月)3規格および区分C(H21年12月～H22年11月)2規格の合計8規格に取り組んだ。

区分A 2規格(改正2件)

- ① PP・PE 材料規格改正 2件

区分B 3規格(制定2件, 改正1件)

- ② 圧縮特性試験法改正 1件

- ③ ウレタン原料試験法制定 1件

- ③ 生分解性プラスチック制定 1件

区分C 2規格(制定2件)

- ② 接着剤試験片調整法 制定2件

平成22年度の JIS 公募は、3期制から前期、後期の2期制に変更となるが、約10件程度のJIS原案作成を見込む。

以上